

# 井戸端通信

1997  
No. 1

平成9年7月1日発行



■なごやかに時は過ぎて……

レッジ職員を含め約一〇〇名が集った。自遊塾の究極的な目標は塾生による塾生のための自主的な学習及び主体的運営。今年はその一環として塾生ボランティアによる企画、運営する開講式をはじめ行われた。塾生ボランティアとは講座を受講するだけでなく、自遊塾そのものを自ら企画運営を行う塾生。講座申し込みの際に募集したところ50名の応募があり、開講式では20名ほどがスタッフとして受付、会場誘導、司会などにあたった。

県民カレッジ山口学長の開催のあいさつ、松原塾長による県民教授陣の紹介、中村自遊塾倶楽部代表の報告と、開

平成9年度

## 第3回自遊塾開講!

3回目を迎え、塾生主体に開講式を企画・運営

県民の自主的な学習と盛んな交流をめざして開講された「県民カレッジ自遊塾」。開講式とともに、向学心旺盛な県民がこぞって参加。3年目を迎えた今年は518名が応募。富山県民の留まることのない学習意欲に目を見張る。5月下旬から始まる開講を前に、5月24日(土)に開講式&交流会が富山県民会館8階のレストランキヤッスルで開かれ、県民教授、カ

講式が滞りなく行われ、学長の乾杯のもと、会場は速やかに交流パーティーと化す。各テーブルでは自己紹介方々、早くも談笑ムードいっぱいになごやかな空気が漂う。座が和らぐなか、壇上では3人の県民教授によるミニ講座が繰り広げられる。「アクティブ人生計画」と知的余暇開発術の柳原教授はなんとチンドン芸によるミニ講座を披露。郷愁をそそるチンドンの鐘を伴奏に「サザエさん」を合唱。参加者全員いつの間にか童心にかえる。続いて泉教授による篠笛のソロ演奏。澄んだ篠笛の音色に思わずホロリ、皆静かに聴き入る。最後にモン太郎教授のジャグリング・パフォーマンス。「ジャグリングのことはいわゆる西洋のお手玉。教授のあまりの妙技にひよ



■ちんどんに血が騒ぐ男

柳原県民教授のジャグリング・パフォーマンス。「ジャグリングのことはいわゆる西洋のお手玉。教授のあまりの妙技にひよ

つとして手が十本くらいあるのでは目を疑ってみたほど。講座のお披露目が終わり、松原塾長の中間スピーチ、昨年の塾生のスピーチ、閉会の辞と、あっといふ間の2時間であった。

眺望が自慢の8階レストラン。当日は澄み渡る青空に連なる立山連峰がひときわ雄々しく、まるでこれからの自遊塾の前途を祝福するかのよう、見守っていた。



■自遊塾県民教授陣



### 楽しいトーキング・ウォーキング

ウォーキング冒険塾 中村 聡

5月17日。富山湾に注ぎ込む常願寺川が、ウォーキング冒険塾の出発点となった。第3期である今回の塾生をはじめ、第1期から参加してすっかりウォーキングファンになってしまった人、またそのお友達と、メンバーも多彩である。

松原塾長のあいさつの後、小雨そぼ降るなか、常願寺川左岸を渡り歩き始める。先頭の飯野さんはかなり速いスピード。この日は、川沿いのなだらかな道のせいも、会話も弾み、ウォーキングというよりトーキングといった様相である。

第1回目は常願寺公園までの約7キロのコース。途中休憩を1回を入れておよそ2時間半、

はじめて出会ったにもかかわらず、なぜか旧知の友のように親しくなっている人も見受けられた。楽しいトーキング・ウォーキングで滑り出しは快調そのものである。

6月14日の第2回。1回目の前回とうって変わって晴天のウォーキング日和。5分も歩かないうちに汗が噴き出してくる。前回会ったばかりなのに、もうすっかり仲良くなつて和気あいあいに歩く。メラメラ燃える炎天下にビールが恋しくなるが、汗を拭き拭きひたすら歩く。

安政の大地震で上流から転がってきた巨石が鎮座する。常願寺川あたりはいたるところでこうした岩がゴロゴロしている。ここでひと休み。佐々成政が造ったといわれる済民堤で2回目の休憩。じりじりする暑さのなか、常願寺川から分流した用水のせせらぎが涼やかで心地よい。橋を渡り、雄山神社が終点。炎天下の中、13キロはちと暑い。足の裏もじりじりする。とは言え、神社に着いて参拝するどの顔にも安堵の色がうかがえ、次回への期待に胸を弾ませていく。

今回のウォーキング冒険塾の様子をデジタルカメラで撮り続けていく。将来、自遊塾のホームページをオープンした際は、

みんなが元気に歩いてきた様子をぜひ載せたいと思っている。その時をお楽しみに！

♥ 早くトーキング（!?）ホームページが見てみたい。



### 色即ち是空なり

創造的問題解決の手法 松本真美

生きていることは選択の連続である。そして自分で選択したことを後で悔やんだり、選択肢を見落としたりしている。私はよく人から「いつも楽しそうだね」とか、「悩みなんか何もないでしょ」と言われる。

とんでもない。私だってほんとうは迷える子羊ちゃんなのだ。「創造的問題解決の手法」なんて聞いたこともないような講座に応募したものも、何だかよくわからないけれど「私を救ってえー」という思いからだった。

で、本題に入るが、そもそも「創造的問題解決の手法」とは

何ぞやということだが、日々私たちが抱えている悩み、例えば人間関係であったり、恋愛問題や金銭問題であったりと様々だが、悩んでいるその現実と、もつとこうありたいという理想とのギャップ問題を「障害」としてではなく「チャレンジ」として、つまり越えていくものとして捉え、前向きに生きていこうというのがこの手法のそもそもの定義。その際大切なのは、先入観や固定観念にとらわれないで、無心の状態で取り組むということ。創造的とは、そういうことを示す。これが案外難しい。

色即ち是空―大学教授と住職という2つの顔をもつ永田教授の言葉のひとつひとつが、心の中に沁みとおつていく。

6月11日の講座では、ある塾生がクライアントになり、実際に彼が悩んでいる問題を取り上げた。クライアントの悩みは、物覚えが悪くて困っているということだった。そこで他の塾生がクライアントに次々に質問をして分析を試みる。いつ頃から悩んでいるのか、実際に困っていることは何か、といった具体的な事柄を引き出しながら、次の問題へと発見していく。その問題の中からクライアントが一番に気にかかる問題点を選び、今度はそれを解決するアイデア



を考え、さらにどのアイデアが最適かどうか絞り込んだ上で、経済面、時間的制約、実現の可能性、受け入れるキャパシティなどを目安に評価する。その結果、「軽い運動をする」という解決策にたどりつき、最終的には運動するための具体的なプランを練ることになった。

ここで面白いと感じたのは、クライアントが最初にあげた物覚えが悪いという悩みが、最終的には早朝キャッチボールをする。という結論に至ってしまった点だ。先入観や思い込みをいれないで、客観的な事実による分析で、自分でも気づかなかった真の問題を見つけたことが、キーポイントとなる。永田教授の穏やかな口調にのって、塾生の声が飛び交う、あつという間の2時間だった。

◆物覚えの悪さの解決策がキャッチボールとは。ヒマンの解決策がフマンの解消だったりしてネ。

### 編集の意味するところは深い

壁新聞からマルチメディアまで

設立編集術五十嵐和恵

今年から新しくお目見えした

「壁新聞からマルチメディアまで役立つ編集術」と題した宝田実教授の講義が7回の予定で6月14日から始まった。

「情報過多の時代、情報を出す側も受け取る側も、その整理が大きな問題となっている。より効果的な情報発信の技術「編集」を学ぶことで、生活を豊かにすることをねらい毎月、第2土曜日に教育文化会館で行われる講義の内容は、以下の通り。

- 1回 人生はコミュニケーション (編集の意味とは)
- 2回 情報伝達の道具と技術 (効果的な手段)
- 3回 新聞は編集の見本 (分析と応用)
- 4回 読んでもらえるチラシをつくる (実習)
- 5回 世間話の編集術 (話し方の基礎)
- 6回 音と映像の編集術 (分析と応用)
- 7回 生活を編集する技術 (自由と豊かさ)

第1回目の講義は、ヨコ紹介による名簿づくりから始まった。これは、たまたま隣り合わせた受講者がお互いの自己紹介をカードに書き合っもの。取材(?)と編集のまずさから肝心のこと

紹介が進むにつれ、受講者の大部分がミニコミ紙や広報紙に係わっているプロ及びセミプロということがわかって焦る。

ここで分析し、総合するということに改めて考え、「5W1H」という普遍的な編集の基礎をまず教わる。次に、いま習ったばかりのことを頭に描きながら、意識的な自己紹介に移る。今度は自分自身のこと、とはいえず、あれもこれもと思い浮かぶ項目を、頭の中で整理するのも難しい。

最後は編集の意味について考える。編集とは、字の通り集めて編むこと。そして、編集の価値とは、コミュニケーションの目的と方法の最適化である。と実践的なこの講義は、編集に係わる人はもちろん、それ以外の人にもとても興味深いものに違いないと思う。一ヶ月後の講義が待ち遠しい。

★編集するとは、究極的にはどう人生を編集するかということ。なんてちょっとキザかな。



味わい深い時間はワインから

楽しく素敵にワインとお付き合い 東保倫子

受講申し込みをしてから、ずっと心待ちにしていた「楽しく素敵にワインとお付き合い」の開講。第1回目は、ワインアドバイザー中山安治氏による「ワインとはなんて楽しんだらう！」でした。

初回ということもあって、まず郷倉政信教授ほか講師の方々と私たち生徒の自己紹介から始まりました。私を含め皆緊張の抜けきれない面持ちで、最初は堅苦しい雰囲気を感じないでも



■ポーズだけはしっかりプロ...?

なかつたのですが、詰まるところ酒好きの集まりですから、講義を終えた頃にはすっかり打ち解けあって和気あいあいとした空気に包まれていました。 諧諔(かいぎやく)冗談(冗談)を交えての中山先生のお話は、楽しくわかりやすく、とても興味深いものでした。カベルネ・ソー

ヴィニヨン、ピノ・ノワール、シャルドネなどのワイン用ブドウ品種のそれぞれの特徴についてや、AOC法などワインの分類法について、テスティングの仕方、食べ物とワインの相性……。すぐに役立ちそうな知識も満載でした。

とはいえ、一番の楽しみは、やっぱり実際にワインを味わえること。今回は2種のスパークリング・ワインと、3種の白・2種の赤ワインを飲み比べました。すぐに飲み切らないと味が落ちてしまうワインを一度に何種類も味わうというのは、なかなかできません。先生のアドバイスをききながら、じっくり味を確かめることができ、ほんとうに幸せな一刻を過ごすことができました。

♣ 読んでいるだけでワインを味わっている気分。次回の読む美味しさが楽しみです。



### 山をも動かす力に期待

羊の毛でフェルトを作ろう県民教授

荒井よしこ

「一騎当千」(一騎で千騎にあたるほどの力のあること)。

5月24日の開講式で、山口学長は持つだろう力をこんな言葉で述べられた。「ここから富山県はかわっていくのではないかと熱のこもった言葉を私は少々驚きと同時に、いやまんざら大げさなことでもないなという思いとで、ドキドキしながら聞いた。

私は昨年度より県民教授として自遊塾に参加し、今年が2年目。これまでお世話をしてくださる県の方々、個性豊かな人生経験豊かな他の県民教授の方々と接するなかで感心させられ、学

### 第1回 自遊塾倶楽部課外授業

### 梅雨なんか吹っ飛ばしちゃったぜーパーベキュー

6月第2週の15日(父の日知ってました?)にとやま古洞の森にて第一回自遊塾懇親会を行いました。梅雨入りしたけどいい天気(暑すぎず、寒くなく)に恵まれ、集まったのは各講座より14名。総勢400名の自遊塾生にしてはちょっと少なめですが、パーベキューには、多すぎず少なすぎず、ちょうどいい人数でした。

12時30分に教育文化会館(II教文)に集合した教文組は、買い出しした食料を積み、2台の車に分乗。古洞の森に向かいました。少し道に迷ったものの、どうにか無事に到着。



いざ開始!肉は味付けをしたもので手間いらずでしたが、野菜はノンカット。すべて切らなくてはいけない(こめんなさい)。下準備してまですんでした。でもベテラン主婦おふたりの見事な包丁さばきであつという間に準備万端。お腹のすいているわれわれはすぐさま、ジュージュー焼く役目に早変わり。鉄板職人の出現や焼きそばカルボナーラ風(お試しあれ!意外においしいよ)のお披露目など、メンバー全員初対面なのにもかかわらず、そうでない不思議な団体!?に化していました。パーベキューの後には、芝生の広場で青空座談会。小話、子ども頃の恥ずかしい話、イタリア語についてなどいろ





■フェルト作りに励む生徒たち

ばされることの連続であった。そして塾生有志からなる自遊塾倶楽部。ここもまた彼らがいよいよに「人材のフリーマーケット」。それぞれがやる気とアイデアを持ち寄り、それぞれの職業を離れ、職業を生かし、講座間交流を企画・運営する。

そう、自遊塾は人材の宝庫である。私は長年の東京生活の後、リターンして、教えてみたい、仲間が欲しい、という動機から新聞記事をみて県民教授に応募したわけだが、その結果こんなにも多くの頼もしい人々に出会えるとは予想していなかった。「自遊塾」に臨む時、自分の中に「ワクワク」した気持ちがないと、それは真似事ではない。

各々自らのアイデアがいっぱいで、何が飛び出してくるのかわからない期待が詰まっているからかもしれない。そんな力が集まれば、本当にとてつもない力になって山をも動かすこともあるだろう。

まだまだ未熟な私の役割は、まず自分の講座を充実したものにするために、小さな努力を積んでいくことだろう。そして一人ひとりの塾生にワクワクした気持ちで伝わるようになればすばらしいなと、思いを馳せる今日この頃である。

♥「職業を離れ、職業を生かす」ということ。今後注目されるボランティア生活に大切なキーワードになると思います。

### 川柳一ロアドバイス

現代川柳入門県民教授 森谷正成

課題「民宿」の作り方

①川柳は五七五音字で詠んでください。たとえば「こっかい(国会)」は四音字、「プール」は三

■年齢問わず青春しています



ヤツ)。ちなみに私は温泉情報入手。さっそく出かけてみようと思っています。

7月以降も課外授業が1イベント/月でいろいろ企画されているようです。堅苦しいことはありません。ちょっと興味あるし、ちょうど予定が空いている時、気軽に楽しんで帰るって気持ちで参加してみるのもいいかも。思ったら吉日。さっそく広報紙を要チェック！です。

大浦由貴 記

★そうです。要チェック！すべし。次ページに記載の通り、ステキな課外授業を企画しています。きつと病みつきなることうけあいです。

んな話に話に花が咲きました。今回の交流会では、違った講座からいろんな人たちが集ったので、他の講座内容を知ることができ、しいては次回に受講する講座の参考にもなりました。その他、知らない情報も得られます。(俗にいう口コミ情報って

音字、「にゆうがく(入学)」は四音字です。

②「民宿」から連想する言葉を書き出してください。たくさんあるほどいい。

③その言葉を使って五七五にして、誰が読んでも意味のわかるものに仕上げてください。

④私が連想する「民宿」のイメージ

▽海・島・空気・魚・海水浴・水着・家族・潮の香り・おにぎり・帽子・太陽・バス・電車・切符・日焼け・砂・素肌・青・パラソル・アイスクリーム

《例句》

▼民宿もホテルになって いる料理

▼民宿と呼べぬ 民宿の立派すぎ

《句の気持ち》

ホテルの料理と、ホテル並の建物と部屋を見て、これが民宿だろうかと思う。私の意識のなかにある、民宿はどこへいったのでしょうか。

\*現代川柳の四本の柱

1.皮肉味(風刺)

2.ユーモア(笑い、滑稽、おかし味)

3.軽味(いさぎよさ、いき、さらさらした、こだわらない、あっさり)

4.詩性(志、希望、ゆめ、願い、救い、慈悲、仏性)

▲駄句を一句。「国民皆 中流となり 民の宿なき」おそまつでした。

〈敬称略〉

# Let's Go!!

○潮香に誘われて バードウォッチング  
7月13日(日) 10時~12時  
富山新港臨海野鳥園 \*バードマスターによる解説あり  
参加費1000円

○真夏の夜の夢 星空観測会  
8月9日(土) 19時~  
とやま古洞の森  
参加費210円

○静謐で豊かな時間を 座禅の集い  
8月31日(日) 10時~12時  
臨済宗国泰寺派「興国寺」  
参加費500円

○ハイテクにチャレンジ 山田村インターネット体験と交流  
9月14日(日) 時間・場所未定



\*尚、詳しくは別途チラシにてお知らせします。ふるってご参加下さい。

★森谷教授からのお知らせ

●第3回富山県川柳大会  
9月7日(日) 10時~  
氷見水産センター

○問い合わせ  
森谷県民教授まで  
☎0766(61)2749

皆様へ

去る5月17日、97年度自遊塾が自主運営する「自遊塾倶楽部」の第1回打ち合わせ会が開かれました。総勢20名の中から、4人が広報スタッフとなり、自遊塾初の広報誌「井戸端通信」を創刊することになりました。なにしろすべてがはじめての試み。手探り試行錯誤しながら、いいものになるようにガンバッティングと思っております。暖かいご声援と、たくさんのご投稿を心よりお待ちしております。

### 編集後記

○井戸端通信とともに成長していければと思います。(K恵)  
○仕事の延長のつもりで気楽に広報誌制作に志願したものの、空いている時間を調整しながらの編集作業は思いのほか、大変。しかしながら人的ネットワークの広がり想像以上。ついこの間も某所で某氏にバッタリ会いました。(君の名はS子)  
○久しぶり脳細胞に招集をかけたいいが、人様のパソコンを借りての編集はダブル焼き。嗚呼、myMacが欲しい。(東)  
○今回はあまりお手伝いできなくてごめんね。(M2)

ご意見・ご投稿etc.は  
〒930 富山市舟橋北町7-1  
富山県民生涯カレッジ  
自遊塾・井戸端通信編集部 まで